

Ⅱ 特別企画 Ⅱ

東工大の女性研究者たち Part I

東工大の女子学生は大変少ないということは、周知の事実ですが、研究者の側ではどうなのでしょう。実際に調べてみると、助手以上の研究者の中に占める女性の割合は、やはり、2%程度と、大変少ないのです。(学部生に占める女性は3~4%ほどです。)

東工大の学生の中には、大学に残るにしろ、企業に勤めるにしろ、研

究の道へ進む人が多いと思います。将来、研究をしたいと考えている女子学生の中にも、上記のような状況に不安を感じる人が多いでしょう。そんな不安を吹きとばすために、先輩である女性研究者の方にお話頂きました。

女性に関する問題だけではなく、一般に研究についての話や、女性の視点から見た東工大の様子なども伺

いましたので、男性も含めた学生の方々に、肩の力を抜いて読んで頂きたいと思います。

2号に分けて掲載する予定ですが今回は、情報科学科の寶来正子助教授にお願いしました。先生は大変早く取材に応じて下さり、研究や勉強のことなど、学生一般に共通して興味深いことをお話下さいました。

むしろ女性で良かった…

——今もそうですけど、昔から女性の研究者は少なかったと思うのですが。

本当に今も少ないですね。私の分野でも学会に行くと、女性は私一人だったり。また大学院の学生で発表などをする人がいてもその後も長く続けるというのは少ないですね。私の経験からは日本で特にそういう傾向があると思うんです。例えばフランスでは女性研究者は全体の1/4から1/3近くいますし。特に私たちの分野は体力がいるとか徹夜をしなければならぬとかいうのではないので女性には割合やりやすいのですが。どうして少ないんでしょうね。

——では、先生の場合、特に少ない女性研究者ということはどうですか。

私の場合のことを振り返ってみると、私はしばらく会社に勤めていてまた大学に戻ったんです。そういうことは、今はわかりませんが、その

当時男の人だったらなかなかやりにくかったと思うんです。その時は若いから妻子がいるかどうかわかりませんが、せっかく勤めた大企業をやめるのは家族のことや将来のことを考えれば非常に不安ですよ。でも私は自分一人のことを考えて、そんなにはっきり方針を立てなくてもいいのでは、と思いましたので。

——そういう点では女性でよかったと思われませんか。

ええ、私は女性だからできたと思うんですよ。そういう意味で。私のまわりにも女の人で、途中で(会社などを)変わる人もいますが、そういう人たちを見ていると女だからできることもあるなあと思いますね。——では反対に女性で不利だと感じたことはありますか。

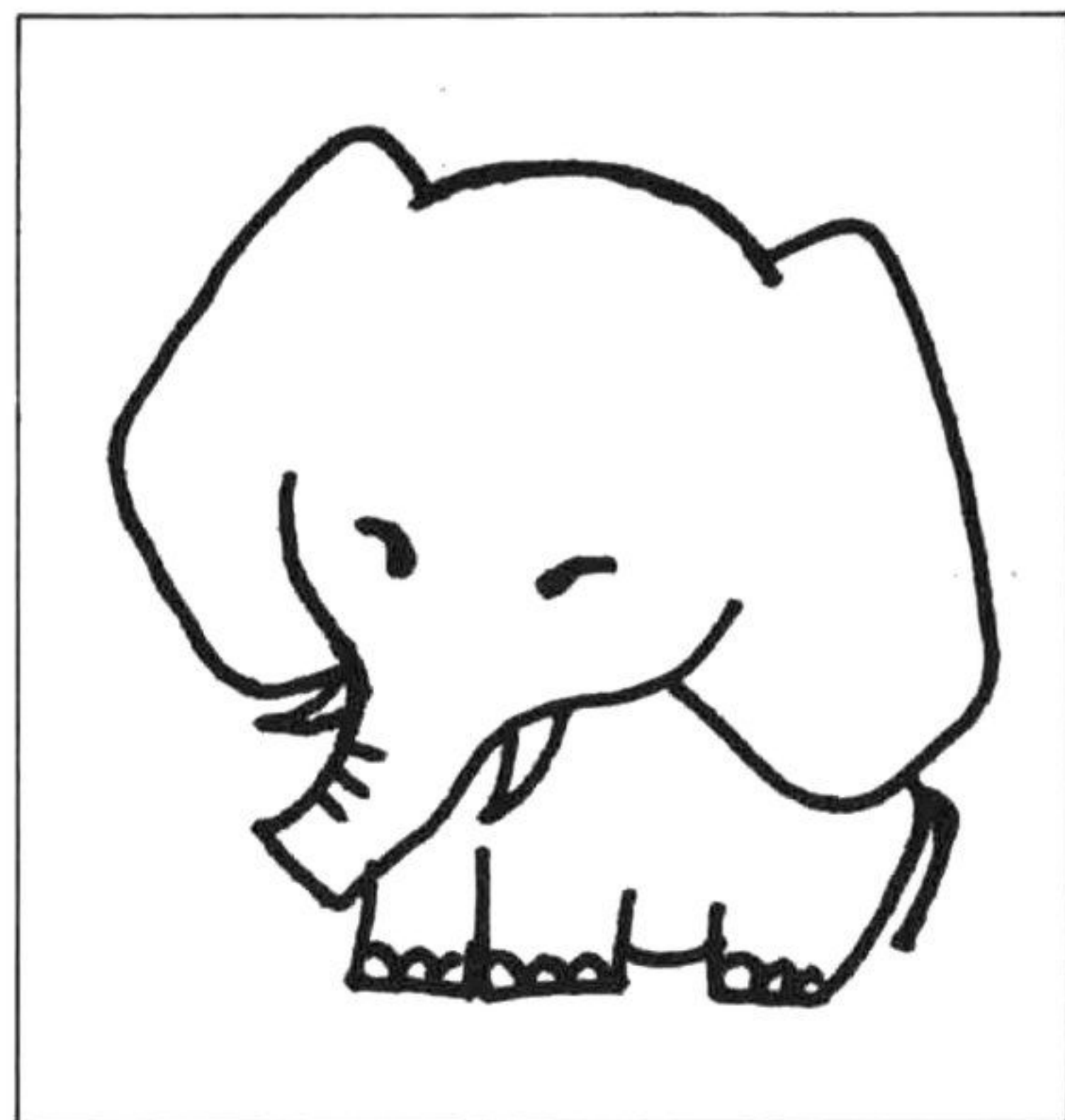
(少し考えて) ……本当にありませんね。ないんじゃないかしら。

仕事と家庭生活と

——家族との両立という面ではどうでしょうか。

私は手抜きで…。また家ではなるべく自分のことは自分でという感じ

なので恵まれているんでしょうね。それに子供はいませんし。子供がいて仕事もするという人を見ていると、大変だなあ、私だったらできないん



じゃないかなあと思います。当事者になってみないとわかりませんが。

自分がそのような状況に置かれたとき、その状況の中で自分でものを考えられるようにしていればいいので、一般論で言うのは無理ですね。仕事を続けるのが自然な道かもしれないし、また無理かもしれないし。自分のことが自分で考えられることが大事だと思いますね。

——女性の場合、大学院に行くと結婚が遅れてしまう、という不安もあると思うのですが、それについてど

う思われますか。

これも一般論では（博士課程の）27歳は遅いのではないかとありますね。でも、自分自身の人生なので、どういう人があらわれてそれからどうなるかわからないですよ。だから、何も心配しないで、毎日充実して生きていると思えるように、自分がものすごくやりたいということをやっていればいいんじゃないでしょうか。私も（結婚したのは）ずっと遅かったのですが、それで後悔してるかというと全然そういうこと

はありません。かなり長い間自分一人でいられて本当によかったと思うんです。もちろん結婚しない生き方だってあるし、普通のパターンじゃなくても幸せになれるということはたくさんあると思いますよ。

自分に甘い今の学生——大人になってほしい

——今の女子学生に望むことはありますか。

女子学生の多い大学等で教えると時々、女子学生ってすごく甘えてると見えるんです。その点外国の女子学生とすごく違う。これは女子学生だけでなく一般に若い人が、ですけど。私はフランスに10ヵ月程いたのですがフランスの若い人達って早く大人になりたいと思っているように見えるんですね。それが日本では逆だと思うんです。幼く見せたい、かわいく頼りなく見せたいと思っていて。そこがすごく違う。

大人になるってことは——私も年を重ねて思うんですが——すごくおもしろいことなんです。20歳くらいでとまっていたいという気持ちもわからないではありませんが、20歳よりあとの方がすごくおもしろいことが次々とあるんです。例えば同じ小説でも若い頃読んで分からなかったのがおもしろくなるとか。人と話をしていてもいろんなことを考えさせられるし、同じ音楽を聞いても違う

とか。そういうおもしろさがいろいろな所にありますね。大人になって自分の考え、意見が持てるということはすばらしいことなのに、それをしたくなくてこの段階でとまっていたい、というのはとてもおかしいと思うんです。

外見は10代の後半で大体大人になりますよね。だけどそれから先は目に見えないものが限りなくあると思うんです。経験をいっぱい積んでいくと、全く予想もしなかった世界が見えてくることもありますから。

——特に研究ということに関して何か感じることはありますか。

大学を卒業するくらいまでは、そんなに好きでないものでも、学力がある程度あって努力すれば単位をとったりすることもできるのですが、その先、研究者になるには頭がいいかどうかというよりも、研究することがすごく好きかそうでないかというのが大きいと思います。好きだったらいつも同じ問題を考えていても少しも苦にならないんです。だけど

嫌いだったらいやになってもっと華々しい分野とかお金になることとかに目移りしてしまう。そこから先は本当に好きなことがやれるかやれないか、ということが研究生活が幸せになるかならないかの分かれ道という気がします。

（浅野）